

手法の特性、ORの組織と要員訓練等について研究・討論を行なった。

5回までの定例研究会では、それぞれのテーマに関してパネル討論が行なわれたが、その討論のなかでは、手法、データ、モデル、応用、能力、組織・体制上の問題点幅広い範囲にわたって議論された。これらは、今後の電気事業におけるORを推進するうえで有益な示唆を与えるものであり、また、今後

に研究さるべき課題を提供するものであると考えられる。

このようにして、電力部会は当初の目的を果たし、一通りの完結をみたので解散することとし、その解散にあたり、これまでの研究・討論を土台として、電気事業におけるORの活用を促進すべく、「電気事業におけるOR振興に関する提言」を提示しようと、現在そのとりまとめに力を注いでいる。(若林 剛)



## 東北支部

1. 会員状況：個人会員64名、賛助会員3社（電電公社、亀井商店、東北電力）となっています。このうち大手としては、東北電力24名、電電公社13名、東北大学8名といったところです。

支部長は、支部設立当初から3年間継続された後藤壮介氏（東北電力）から本年5月の総会をもって浅田秀雄氏（東北電力）に交替した。副支部長、評議員として、東北大、山形大、東北地建、東北電通局、キリンビール、河北新報および東北電力から合計15名と幹事6名とで運営にあっており、事務局は、これも支部設立当初から3年間継続した東北電通局から本年5月東北電力・総合機械化開発室内（幹事：本間四郎）に交替しました。

2. 活動状況：昨年度の講演会としては、「官能検査」—東北大・御園生教授(1970.9, 第2号掲載)があったほか、東北電通局、東北電力など主催によるOR関係講演会の傍聴方を支部会員に案内し、多数の参加を得た。また、支部活動の活発化を促進するため、本部の「金曜サロン」にならい、ORに関する肩のこらないディスカッションや意見交換を行なう会合—「ORサロン」を昨年4月より毎月1回、第3月曜の夜に定例的に開催しました。参加人員は毎回十数名程度といったところ。7月にはキリンビール仙台工場の見学もかね現地で行なうなど11月まで8回連続し、大いにオンシャベリの機会を得、効果があったと思っております。

その後「ORサロン」のなかから生まれた意見などをとり入れ、ORの普及はまず管理者クラスからという考え方から、それらの人々をおもな対象として講義風にORを勉強すると同時に、ORサロンの

な要素ももりこもうという「OR勉強会」と名づけた会合に衣更えした。この勉強会は近藤次郎著の『オペレーションズ・リサーチ入門』をテキストにして、副支部長の東北大・御園生教授などによる講義を中心に毎月1回定例的に開いています。1月からすでに6回開いたが、今後はさらに特定のテーマを中心とした研究会など斬新な趣向をもりこみ、いっそうの成果をあげたいものと考えております。

支部活動を他支部と比べてみますと、もう少しという感じがしますので、会員1人1人が、もっと積極的に組織強化に指向できるような体制づくりをしたいと考えています。

3. 支部総会：本年5月29日（土）の午後で開催したが、会員の半数近くの26名の出席があり、きわめて盛会でした。総会は型どおりの議題審議の後、東北大・渡辺浩教授による「mesh data system の操作性について」と題する講演が行なわれた。この内容は今後の data system の考え方に多くの示唆を与えるものであり、たいへん有意義なものでした。

その後懇親会があり、日ごろの忙しさでついとだえがちな会員相互のくつろいだ交誼の機会を得たといえます。

## 学会誌の体裁変更のお知らせ

去る6月の総会で、会員のご意見をお伺いしましたが、学会誌の体裁を第16巻第1号（1972年1月発行）から変更するよう、細部の検討が進められています。